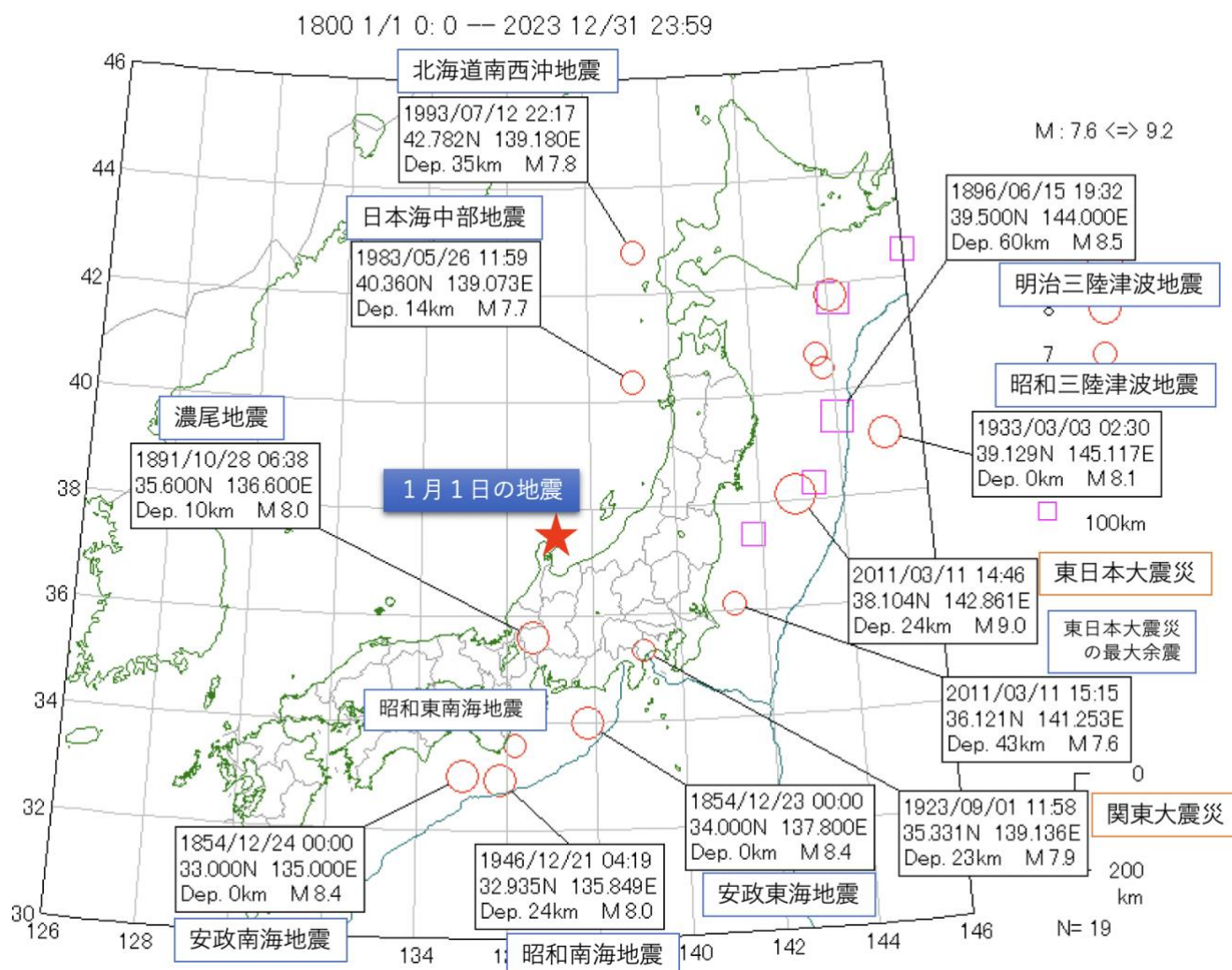




1月1日16時10分に能登半島先端付近を震源とする最大震度7を観測する地震が発生しました。地震のマグニチュードは、気象庁の速報値で**7.6**と報告されています。次の図は1800年から2023年末までの224年の間に発生した**マグニチュード7.6以上の地震**をすべて図示したものです。



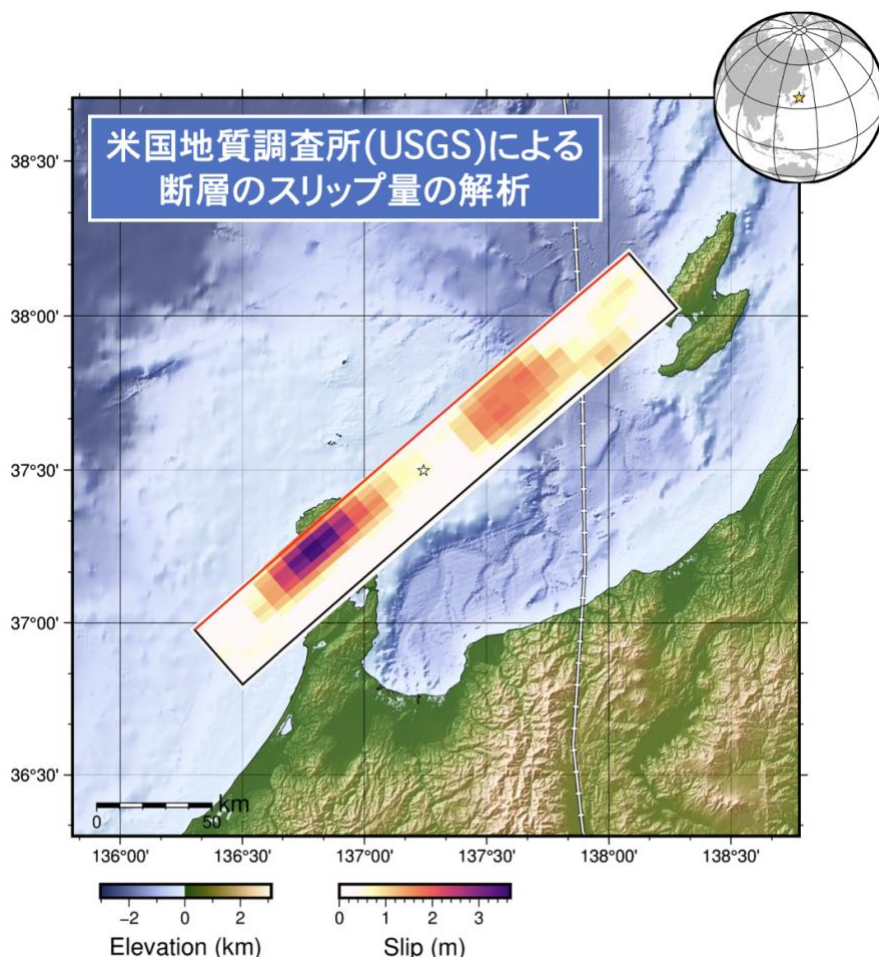
陸域近傍で発生した地震としては、1891年の濃尾地震に次ぐ規模の地震で、内陸地震としては最大級のものであります。上の図は過去200年以上の間、能登半島周辺でこの規模の地震が発生していなかった事を示しています。図示された地震はいずれも大きな被害を伴った有名な地震である事がわかります。

DuMA では、[2023年5月8日のニュースレター](#)で、能登半島における地震空白域の存在を指摘しており、「将来 M7クラスの地震発生が予想される領域」として注意を喚起していました。

1月1日の地震はこの空白域のすぐ東側を震源(破壊開始点)とする地震であった事がわかりました。米国地質調査所(USGS)の解析では、DuMA が地震空白域と指摘していた地域で最も地下での断層運動が激しかったようです。

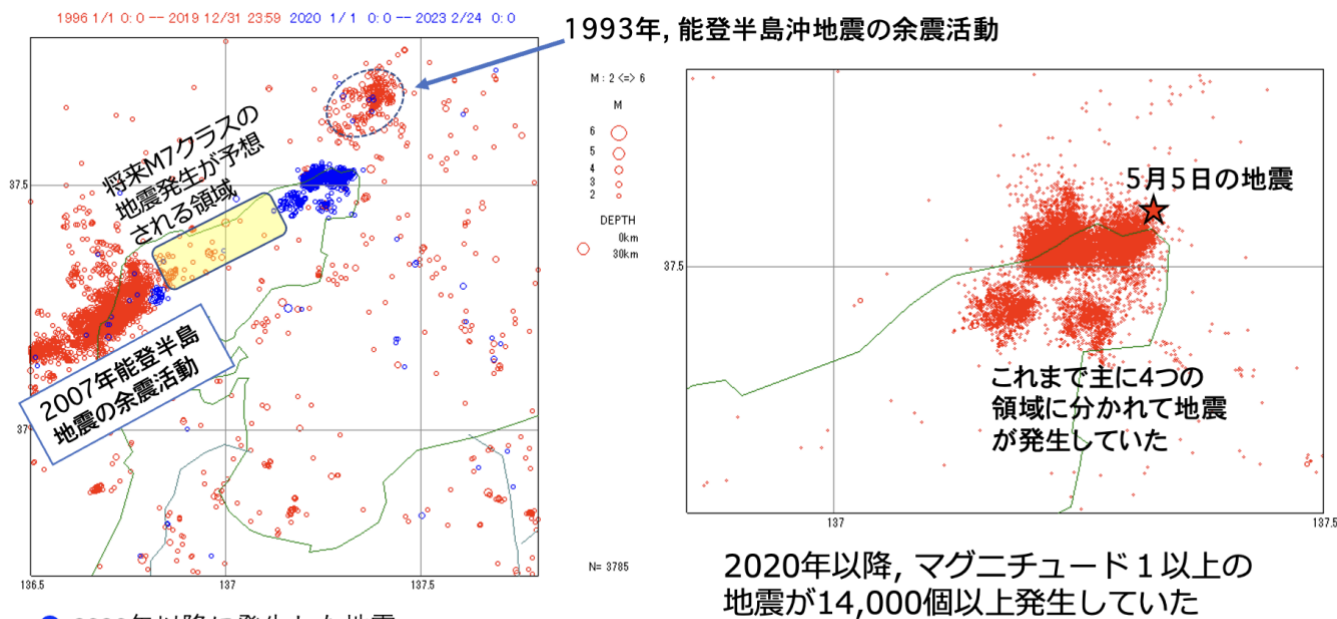
<https://earthquake.usgs.gov/earthquakes/eventpage/us6000m0xl/finite-fault>

次のページにこの USGS による解析結果をお示しします。色の濃いところが大きくスリップした領域となっています。



次にお示しするのが、昨年5月8日のニュースレターに掲載した図です。まだ指摘した地震活動空白域の歪を完全に解放していない可能性があり、もう少し注意が必要な状況と考えます。

昨年5月8日のニュースレターに掲載した図(再掲)



2020年12月以降、珠洲周辺で激しい群発地震活動が開始